

# 道徳だより

令和3年2月

～夢と笑顔と「ありがとう」があふれる上里東小学校～

2月3日には「立春」を迎え、少しずつ冬から春に向かっていきます。今年度も残すところ1ヶ月となり、まとめの時期に入りました。また、3月には、6年生を送る会が行われます。感謝の気持ちを伝えるために、どの学年も練習に励んでいます。

今回は、3年生と4年生の授業の感想をまとめましたので、御家族でお話のあらすじと同じ場面を思い浮かべながら、読んでいただければと思います。

## <3年生の授業より>



「れいぎ正しい人」 【 礼儀 】

★お父さんの言葉から「礼儀正しさ」と「優しさ」の関係について考えることを通して、心のこもった対応の大切さを知り、誰に対しても心を込めて接しようとする態度を養う。

まさおが通う学校の校長先生は、朝礼で「礼儀正しい人になれるように。」と話しました。まさおは、早速実行しました。職員室で「しつれいします。」「ありがとうございます。」と言い、職員室にいる先生にほめられました。夕方、お父さんとスーパーへ行き、中に入ろうとしたときです。スーパーから出てきた男性が、まさおとお父さんが入るために、ドアを持っていてくれました。お父さんは、「礼儀正しいですね。」と声を掛けました。まさおは、見知らずの人にも自然と優しくできることも「礼儀正しいこと」だと気付きます。その時のまさおの気持ちを考えました。

- ・良い挨拶ができることだけが、礼儀正しい人じゃないんだな
- ・今度、知らない人にも優しくしたいな
- ・自然と優しい行動ができるようになりたいな
- ・困った人を助けてあげたいな



## <4年生の授業より>

三つのつつみ【親切・思いやり】

★次に来る人のために自分がすべきことをすることのすばらしさに気付き、人を思いやり進んで親切にしようとする心情を育てる。

●お話の内容●

デルスウという年老いた猟師が、アルセーニエフという地理学者に頼まれて山を案内して歩いていました。お昼になったのでデルスウ達は山奥の小さな山小屋でひと休みしていました。ところが、デルスウだけは少しも休まず、せっせと薪割りをしています。それに加えてデルスウは、塩やお米、マッチを丁寧に木の皮で包みだしました。アルセーニエフが「今晩はここに泊まるのだろうか」と、不思議に思って尋ねてみると、デルスウは「この薪やつつみは、次にこの山小屋へ来る人のための物です。何も持っていない人でも安心して泊まれます。」と答えます。そのデルスウの返事を聞いた時のアルセーニエフの気持ちを考えました。

- ・自分のためにでなく、次の人のためにしていたのか
- ・誰が来るか分からないのに準備をするなんて親切だな
- ・次にこの山小屋に来た人は喜ぶだろうな
- ・次に来る人がだれかわからないのに優しくできるなんてすごいな

